

やさしさだより

平成 30 年 1 月 15 日
尼崎市立 浜小学校
人権教育部 第 8 号

明けまして おめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

冬休みが終わりました。年末年始、様々な行事があったことと思います。子どもたちも新年を迎え、気持ちを新たに頑張ろうという思いを持ったことでしょう。

さて、昨年 12 月の人権週間に持ち帰らせました「ほほえみ」を読まれてのご意見、ご感想をたくさん頂戴いたしました。その一部を紹介させていただきます。

【 1 年 】 「大きく なったら」

○「大きくなったら？」と聞くと、初めは「分からない。」と答えていましたが、話を進めていくと、びっくりするような返事があったりして、子どもなりに日々いろいろ感じながら、刺激を受けながら過ごしているんだなとわかって面白かったです。

○夢というのは、その人の原動力になるので、今後も自分のやりたいこと、将来の夢をきっちり持てるように導いてあげようと思いました。

○子どもがやりたい仕事を考えるということ、親として一緒に考え、そのためにできることをしてあげることも大切と感じました。これからは、私たちが子どもの頃にはなかったような仕事もあるだろうし、様々な選択ができる今の日本で、自由に選べるよう手助けできればと思います。

○子どものうちから色々と将来の夢を考えるのはよいことだと思いました。何がしたいか、何ができるかをたくさん考えていけたらいいなと思います。

○私たち親がしっかり働いている姿を見せることで、子どもも成長したとき、しっかり働いてくれると思います。子どもの見本になれるようしっかり親も頑張ります。

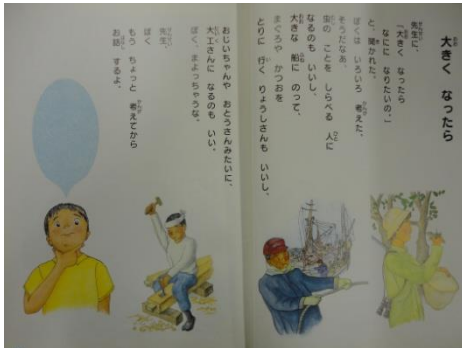
○子どもたちと将来の話をして、普段とは違った話ができたと、とてもよかったです。少し日がたってから、もう一度大きくなったら何になりたいの？と質問してみたいと思います。

【 2年 】 「大きく なったら」

○親として何にでもなれるように応援したいと思います。子どもには勉強よりも大切なことがいっぱいあると教えていますが、将来、自分がしたいことをするために勉強も大切だと教えています。

○将来について、いろいろな夢を持たせる環境を作る事が親の仕事だと感じました。

○子どもの考えていることは無限ですね。親の思うような職業にはつかないと思うので、どんな困難でも乗り越え、失敗しても自分の力で起き上がれる人に育ってほしいと思っています。



○家庭では、日頃からどんな職業でも一生懸命に勤めている人がいるからこそ、世の中がまわっているという話をしています。様々な職業を知り、目標に向かって努力すれば夢がかなうような社会になればいいね、という話をしました。

【 3年 】 「だいこんとにんじん」

○人参や大根は、お互い、見かけや言動にとらわれて個性や違いを認め合うことができていない。これは、私たち人間の世界でも目にすることがあり、また、心ない言葉に傷つけられる時がある。人は自分と違うものをなかなか認めようとしないが、小さい頃から、私たち大人がお互いを認め合い、“みんなちがってみんないい”という金子みすずさんの言葉、その意味を伝えていくことでお互いを尊重し合えるにではないかと思いました。

○子どもは、あれっ？と思うことがあっても、違う角度（大きな視野）で見たり考えたりすることを教えたり、一緒に考えたりしたいと思いました。色々な個性を持ったお友だちとたくさん色々な経験をしてもらいたいと思っています。

○友だちや仲間がいると、人をからかっておもしろがったり、してはいけないことでも皆がいるとしたりしてしまう。皆がいていようが、いていまいが、自分がされて嫌なことはしてはいけないということが分かりました。



○体の大きさや色がちがうと面白く見える人もいるかもしれないけど、嫌な気持ちにさせてしまうという事を、この本を通して分かってくれる人が、一人でもいたらいいなと思います。

【 4年 】 「やくそく げんまん」

○本当の友だちとは何かを考えるいい機会になったと思います。何でも一緒に友だちなのか。また、周りにいる子が嫌な気持ちになってもかまわないのかなど、子どもが自分の体験と比べながら考える事ができる、今の年齢に丁度良いと感じました。

○秘密を共有することで友だち同志の絆が強くなるので、善悪の判断が未熟なときには、より危ない方、悪い方へ進んでしまわないよう、自分の考えをしっかり持ち、おかしいな？ということがあれば、親や先生に相談するようにと話し合いました。

○おかしいと思える約束でも守らないと遊んでももらえない…などと、まだまだ未熟な子どもは考えてしまうかもしれません。なるべくなら、親としては仲良くしていてもらいたいのですが、悩んだり、嫌な思いをしたりしながら、相手の気持ちを理解していき成長していくのだと思います。

○自分の気持ちを主張すれば、はねのけられ、それがいじめにつながっていくかも…そんな風を感じました。

○友だちだからこそ思っていることを言い合える関係であってほしいし、ダメなことはダメだと言えるようになってほしいと思います。



【 5年 】 「権利の木」

○必要なことが普段当たり前のようにそこにあって、そのありがたみを考えさせるいい機会になりました。“ある”“いる”ことに感謝の気持ちを忘れないでいてほしいと思います。

○いろいろな権利があるけれど、それを主張するなら、やらなければいけない嫌なことやめんどうだと思いうこともやっていくことが大事だ。(後略)

○子どもと「権利」の木を作ってみました。どれもとても大切でなかなか決められないみたいでした。私自身も順番をつけることは難しいと思いました。もっと普段から「人

権」「権利」などについて考えなければいけないと感じさせられました。



○（前略）まだまだ子どもだからと勝手に決めつけ、親の言うとおりにさせようとするのは、その子の人権を無視していることにもなる。あまりそこまで考える事なく過ごしていました。思っている以上に子どもの成長がはやくて、自分は自立しようとしている子どもに気付いてやれる親になれているだろうか、改めて考える良い機会になりました。

○必要とする順がそれぞれ異なり、価値観の違いを再認識しました。違いがあるからこそ、意見の食い違いがでたり、いろいろな新しい発想が生まれたりするということがあります。違いを受け入れることについて話をすることができました。

【 6年 】 「命のビザ」

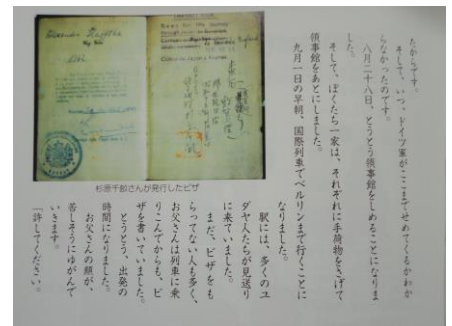
○自分のことだけならまだしも、家族に危害が及ぶかもしれない状況で、規則に反してまでも人を助けるということは、なかなかできることではないという話をしました。

○少しでも人を助けようとする姿が印象的でした。

みんながみんなこうであれば、いじめもなく、笑って過ごせる子がふえるのになあと思いました。あかんことはちゃんとあかんと言って、人助けできる子に育ててほしいと思います。

○外交官という自分の立場よりも、一人の人間として正しいと信じた道を選んだ杉原千畝さんの勇氣ある決断もすごいです、それに賛成し、支え続けた奥様も強くて優しい方だなと思いました。

○自分の立場や地位ばかりを考えるのではなく、人として、人のためにおこした行動は、とても素晴らしいと思いました。平凡に過ぎていく毎日の中でも、自分のことばかり考えず、人のために、何か小さなことでもできることがあれば行動していきたいと思いました。



<今回に限らず、毎年たくさんのご協力をいただきました。

ありがとうございました。>